

平成 26 年度 第 4 回福井市行政改革推進委員会 会議概要

1 開催日時 平成 27 年 1 月 29 日（木）14:00～15:15

2 開催場所 市役所本館 8 階 第 3 委員会室

3 出席者

(1) 委員 南保勝 委員（委員長）、内山秀樹 委員（副委員長）、稲葉明美 委員、
今村善信 委員、岡山宇太郎 委員、奥村清治 委員、黒川俊枝 委員、
齋藤万世 委員、澁谷政子 委員、田村洋子 委員

(2) 事務局 総務部長、総合政策室

4 会議次第

- ・ 開会（市民憲章唱和）
- ・ 協議（1）福井市行財政改革指針の改訂について
- ・ 閉会

5 協議の概要

	<p>協議事項（1）福井市行財政改革指針の改訂について 資料 1 資料 2 資料 3</p>
委員	<p>p. 11 のNo.6「公共施設等の総合的な管理による老朽化対策の推進」について、公共施設等総合管理計画は、道路などのインフラ系と施設マネジメントのハコモノ関係の二本立てと思うが、未策定であるインフラ系の策定とあわせて、公共施設等総合管理計画が平成 28 年度に策定されるということか。</p>
事務局	<p>公共施設等総合管理計画と施設マネジメント計画は上下関係にある。公共施設等総合管理計画は上位計画となり、具体的な事業計画として施設マネジメントなど各種の施設やインフラの計画がぶら下がる。通常は理念的な上位計画を先に定め、事業計画を後に決めることが多いが、今回は順序が逆になっている。28 年度中に策定する公共施設等総合管理計画が全体計画となる。</p>
委員	<p>p. 13 のNo.15「広聴の推進」について、具体的な事業としては、市政モニターなどとの意見交換会などを意図しているのか。</p>
事務局	<p>行財政改革指針の改訂にあたっては全般的に取組項目を見直した。取組項目を実現するための具体的な事業は、3 月から 4 月にかけて各所属の事業の中から不足のないよう選定していく。行政改革推進委員会には来年度の 5 月以降報告する。</p>
委員	<p>p. 10 のNo.3「指定管理者制度導入施設第三者モニタリングの実施」に関して、現在導入されている施設に対しての評価か。今後、指定管理者制度の導入を拡大</p>

事務局	<p>していこうという取組は施設マネジメントの範疇になるか。</p> <p>No.3「指定管理者制度導入施設第三者モニタリングの実施」については、指摘のとおり既に導入されている施設に関するもの。新たに導入する場合については、No.6「公共施設等の総合的な管理による老朽化対策の推進」やNo.1「事務事業点検の実施」などで公共施設のあり方や事業のあり方を検討する上で、指定管理者制度の導入を推進していく。</p>
委員	<p>指定管理者制度の導入には賛成する。しかし、導入されることが周知されないまま、公募によらず、指定方式で導入された事例もあると聞いている。導入に当たっての選定方式についても十分検討してほしい。</p>
事務局	<p>情報発信が弱い部分はあるが、選定経過を公表しながら、関心を持つ方が経過を見守ることができるように選定していく。また、指定管理者制度を導入すべき施設があれば意見をいただきたい。</p>
委員	<p>p.6の「4 推進体制」について、行政改革推進委員会の役割を確認したい。「行財政改革の取り組み状況について」「審議し」、「助言・提言を行います。」ということであれば、これまでのように外部点検をするという役割とは趣旨が異なるように受け取った。外部点検の実施も必要であることは理解している。委員会の役割はどう変わるのか。</p>
事務局	<p>推進委員会の位置付けとしては、福井市行政改革推進本部が行政改革に取り組むにあたり、意見を求めるのが推進委員会である。</p> <p>外部点検は、事務事業の点検から抽出した事業を外部の視点から見ていただくために、副次的に推進委員会での点検をお願いしている。</p>
委員	<p>比重、時間をかけているバランスが悪いように感じる。本来の推進委員会の役割を圧迫してまで外部点検に時間をかけている。「時代の変化に対応した公共サービス」の観点から点検するならば、例えばp.1「1 本市行政を取り巻く環境」の5つの要因を視点としてチェックすべき。</p>
委員	<p>人口減少に取り組むことを明確にしているが、指針の取り組みでははっきりしない。全国の市町村との競争の中で、福井市のいいところを示し、どう人を増やすかということが取組項目からは見えない。</p> <p>この委員会がどう切り込んでいくか。人口減少に関してはここ2～3年が勝負ではないかと感じている。</p>
事務局	<p>国も人口減少を重要視し、過去の緊急経済対策のように交付金を出した。また、長期的には総合戦略を策定して取り組むという方向性を出した。</p> <p>委員会の役割としてはNo.1「事務事業点検の実施」を通して、福井市を取り巻</p>

委員	<p>く環境や人口減少、総合戦略などいろいろな視点から各種施策を点検いただけると考えている。</p> <p>外部点検については、今年度、第六次総合計画に沿って事業選定し実施していくこととした。来年度からの点検については、今年度からの改善のために再構築していくこともできるので、意見をいただきたい。</p> <p>外部点検については、その結果を見せてほしい。2月の段階でこう変えますというのは報告いただけるのだが、その結果としてどう変わったのかということが見えない。そこまで報告をいただきたい。</p>
事務局	<p>2月の委員会では予算への反映等をまず報告させていただく。来年度5月以降に開催する委員会で、現指針の5年間の成果を報告させていただく。</p>
委員	<p>改訂版ということで、微修正であと2年となったが、28年度というのはある程度の区切りか。中途半端にならないか。</p> <p>また、現指針の成果の取扱いは。どのようにまとめるのか。</p>
事務局	<p>現指針の22年度から26年度まで5年間の成果については、数値にあらわせるもの、そうでないものを含めとりまとめて5月以降の委員会で報告させていただく。</p> <p>28年度は総合計画の区切りの年。総合計画に期間を合わせて改訂する。</p> <p>5年だから2年だからということはなく、継続性と革新性との両面から取り組んで行く。</p>
委員	<p>テレビで富山市のコンパクトシティの取組を見た。都市の範囲を広げないことで、結果的に介護のヘルパーの移動距離や除雪路線を短くして効率化する取組だった。右肩上がりの成長から視点を変えることで行政改革につながる取組と感じた。福井市の考え方を教えてほしい。</p>
事務局	<p>都市計画マスタープランを30年ほどの期間を設定して策定している。この中でも地区の中に拠点を設けて集約していくとしている。以前は中心市街地に人口を集約するコンパクトシティにも取り組んだが、近年は国の政策としても地域に拠点を作っていくという方向性。</p>
委員	<p>p.11のNo.7の中で「市税収納率の向上」はどれくらいの未収入や滞納があって、どのように取り組んでいくのか。報道では滞納者の中にも多重債務に苦しんでいる方がいて、債務を整理したら過払いがあり、お金が戻ってきたという事例があった。具体的にどう取り組むのか知りたい。</p>
事務局	<p>徴収額をどれくらいにするか、滞納を減らして収納率をどこまでもっていくかという具体的な数値については5月以降に報告したい。</p>

委員	<p>金額は景気によっても変動すると思うし、それぞれの人によって事情も変わると思う。</p> <p>地区の区割りの変更についても、指針の中で取り組むのか。</p>
事務局	<p>市として大きな課題。区割りもいろいろあり、人口の増減は学校関係の区割りにも影響してくる。いろいろな行政サービスに影響がある。</p> <p>各部局とも常に検討はしており、行財政改革の視点から必要となれば取り組むこともある。</p> <p>現指針の中では、例えば自治会の統廃合も進めているが、まずは住民の合意形成が必要になるなど、行政だけが取り組めば進むものでもない。</p>
委員	<p>行政改革推進委員もそれぞれの立場から参画し、様々な意見を持っている。委員の意見を運営に取り入れる場を設けてほしい。</p>
委員長	<p>地方創生と人口減少が大きな話題となっているが、目先の都市間・地域間競争ではなく、大きな視点から行政も取り組んでほしい。</p>
副委員長	<p>事務事業点検は総合計画の全ての事業を網羅する取組。行財政改革指針は現在の社会情勢の中でやるべきことを絞った取組。行財政改革指針の取組項目として事務事業点検の実施があり、その一部が外部点検の実施であると理解できた。</p> <p>推進委員会の役割として、外部点検を行うことに異議はないが、指針の取組項目についてもっと検証したり意見交換したりする場が必要だと感じている。</p>
委員	<p>北陸新幹線延伸が前倒しになって、新しいものが入ってくるという期待と競争が激しくなるという不安もある。行財政改革を通して、よりよい福井市になるということを行政とこの委員会とで協力して見える形で示していきたい。</p>

(15 : 15 終了)